



授業を大切に part 2 (学ぶことの意義)

先日、2年の国語の授業を参観しました。生徒たちは集中して毛筆に取り組んでいました。何事にもひたむきに取り組めるのが内部中学校の生徒たちの良いところです。

自分が書いた「字」を分析し、課題となる部分をどうしたら改善できるかを考えながら2枚目に取り組み、その次は隣の人に分析してもらい、客観的な視点からの指摘を受けて3枚目以降に取り組んでいました。

中には「毛筆は苦手だ」と言っている生徒もいました。それでもしっかりと「書くこと」と向かいあっていました。そこで、ある疑問が生まれました。そもそも授業で「書写」を学ぶ意義は何で、どのような意味があるのでしょうか。

『学習指導要領』を見てみると、書写に関する事項は、国語科の〔知識及び技能〕の「我が国の言語文化に関する事項」の中に位置づけられています。その内容を一言でいうと「文字を正しく整えて読みやすく（中学校ではそれに加えて速く）書くことができるようになる」ことと示されています。つまり「書写（文字を正しく書く）能力」を身につけることが求められています。

実際に普段の生活の中ではどうでしょうか。私たちは、他者に自分の気持ちや考えを伝える際に、「言葉」を使うことが多いです。そして「文字」で伝えることも多くあります。また、勉強をする際にも「文字」を書いていますし、その他にも様々な場面で「文字」を書いています。

社会で生きていく上で、私たちは何度も「文字」を書く必要があります。その際に、上手ではなくても伝わりますが、正しくきれいに「文字」を書けると、より気持ち（まごころ）を相手に伝えることができます。また、「毛筆」が上手に書けると、人生の様々な場面（冠婚葬祭等）において役に立ち、有用なスキルとなります。書くことで、心を落ち着けることもできます。



他教科の「学び」にもおいても、それぞれ必ず意義があります。このように「学ぶことの意義」を考えて、そのことを理解して取り組むことで、自分事となり、より充実した「学び」となることでしょう。

前号の繰り返しになりますが、学校にいる間で一番長い時間を過ごしているのは、もちろん『授業』です。是非、有意義な時間にしてください。

「新入生フシ授業」にて

1月13日(木)の午後、内部小学校と内部東小学校の6年生を本校に招いて、「プレ授業」を実施しました。本来ならば実際に授業を受けてもらうところですが、コロナウイルス感染症の状況に配慮して、授業と部活動を見学してもらいました。

5時間目に、3年生の担任の先生がガイド役となり、1・2年生が授業している様子を、廊下から見て回ってもらいました。



6年生のみなさんは、興味深く見学していました。また、1・2年生の生徒たちは、普段通りの意欲的で落ち着いた授業の様子を見せてくれていました。そして6限目は、思い思いの場所へと分散して、各部活動を見学してもらいました。こちらも、興味深そうに見学していました。



今回、残念だったことは、授業や部活動を体験してもらえなかったことです。しかし、実際に中学校の様子を見てもらえたことは、大きな成果だと思います。
何事も、実際に自分の目で見て感じることは大切です。

このことは、中学生のみなさんにもそのまま当てはまることです。昨今は、インターネット等が発達したおかげで、実際にその場所まで出かなくても、何となく雰囲気をつかむことができます。しかし、本当のことは実際にその場へ行ってみたり、感じたり、体験してみないとわからないものです。ですから、コロナウイルスが収まったら、いろいろなところへ行ってください。また表面に書いた「文字を書くこと」をはじめ、様々なことを実際に体験してみることも本当に大切です。やってみないと分からないことはたくさんあります。

中学生のみなさんは、大変忙しい毎日を過ごしていると思いますが、工夫して時間や余裕を作って、様々な場所へ行ったり、様々なものを見たり、様々なことを体験したりしてほしいです。

世の中には、美しい風景や芸術(音楽や美術、映画)、文学等の素敵なものがたくさんあります。世界は広く大きいです。様々な人がいて豊かにそして複雑に関係し合っています。また、多様な価値観があります。

そうしたものを、「感じ取る力」「読み取る力」「手繰り寄せる力」等を身に付けるためにも、様々な体験をする必要があります。そのことを「学ぶ」と言います。



当然ながら「授業」や「部活動」も「学ぶ」場ですし、「遊び」の中にも「学び」はあります。学校では、仲間はもちろんのこと、先生とも一緒になって学んで欲しいですし、家庭や地域においても、家族や様々な人と関わり合いながら学び、「豊かな人」になってください。